

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 みかたっこ		
○保護者評価実施期間	利用児がなかったため、実施していない ~		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和7年3月11日 ~ 令和7年3月24日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一般的なペアレントトレーニングとは目標が異なる「ふれあいペアレントトレーニング」が実施できる。(臨床発達心理士資格保有者が実施できる。)「ふれあいペアレントトレーニング」では、ASDの特性のある幼児と保護者との愛着を深めることができる。		・「ふれあいペアレントトレーニング」があること、みかたっこで実施できることを、情報発信する。
2	・普段の保育場から限局性学習症(LD)が危惧される年長児は把握することができるであろう。読み書き計算の苦手さは、小学校生活の適応に大きく影響を与え、小学校1年生で不登校になる児童もいる。その予防のために、また、小学校生活への適応をスムーズにすることができるために、LDが危惧される子どもさんには、小学校入学前から個別療育の機会を作り、ひらがなのデコーディングや基礎的な数概念の底上げをすることが必要である。そのスキルをみかたっこは持っている。		
3	・放課後等デイサービスを隣接する「みかた鶏杜高等学院」の高校生も利用しているため、高校生年代の利用者への対応に慣れている。 ・高校進学をめざしたいのなら、通信制高校などへの進学相談を受けることができ、必要ならば学力の底上げをすることができる。 ・就労をめざしたいのなら、高校生支援同様、職場体験や就労移行支援施設等での体験の場などを設定することができる。		・対象者にかかわっておられる関係機関と連携する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童発達支援のご利用が、令和6年度もなかった。	・市内や近隣の町のニーズのある子供さんは、既存の児童発達支援事業所を関係機関から紹介されるからだと思う。 ・既存の児童発達支援事業所が強みとしておられるところは、別の分野をみかたっこも強みにしているが、それをどのようにニーズのある子どもさんに届けていってらよいか分からない。	・ニーズのある子供さんやその保護者さんに、みかたっこの存在を知って貰えるよう、どのような情報発信が有効かを考慮する必要がある。 ・関係機関にみかたっこの児童発達の特徴を理解してもらおうよう努力する。
2			
3			